

教養コース ④ 国際社会学

「朝鮮半島の歴史と現在と日本」

第2回 朝鮮近代史 (2)

南北分断・朝鮮戦争・共同声明

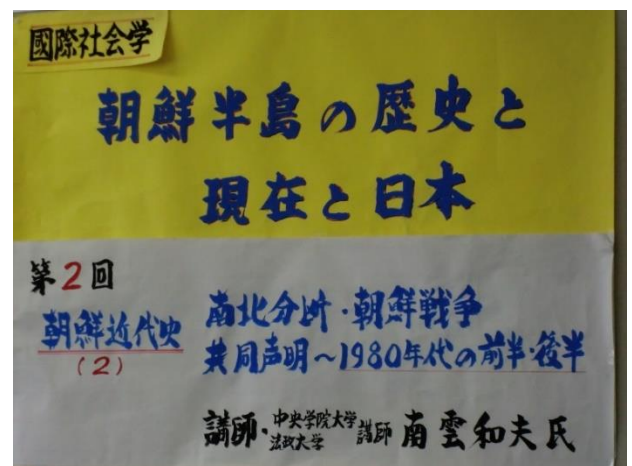
1980年代の前半・後半

日 時 2019年7月20日(土) 10:00AM~
場 所 鶴瀬公民館 第三集会室
講 師 南雲 和夫 氏 (中央学院大学、法政大学 講師)
受講者数 42人

1. 南北分断後の北朝鮮と韓国

<要旨：南北の経済格差が拡大、韓国から融和策が出るも、緊張激化が続く>

- ・1960年代に南北間で散発的なゲリラ活動(68年に青瓦台でゲリラ事件)
- ・両国間の存在を両国が確認「南北共同声明」(1972年)
- ・1980年代以降の動向は、韓国は高度成長に成功、1987年に民主化北朝鮮は経済停滞ソ連のペレストロイカ、また東欧の社会主義諸国の民主化が始まり北朝鮮への経済的、軍事的な支援関係が消滅
→ 韓国との経済格差が拡大
- ・1990年代以降の北朝鮮は、金日成主席の死去(1994年)、大水害(1995年)とその後の自然災害で国内混乱
- ・2000年に韓国の金大中大統領が「太陽政策」→「平和繁栄政策」(双方の交流と経済的な結びつきの強化を約束)
- ・北朝鮮が核実験を強行(2009年)



- ・延坪島砲撃事件、哨戒艦「天安」沈没事件などで南北間の緊張激化（2010年）
- ・金正日国防委員長が死去（2011年）し、金正恩が最高指導者に就任

2. 米朝関係及び六者協議（＊）

＜米朝は緊張関係から、3回の首脳会談を通して事実上の敵対関係を終息＞

- ・米国ブッシュ大統領は北朝鮮を「悪の枢軸」と非難（2002年）

＊六者協議（六か国協議：南北朝鮮、米国、中国、ロシア、日本）（2003年）

＊六者協議が第二段階措置で合意（2007年）
→ 2007年を最後に中断

- ・オバマ政権（2009年～）は「戦略的忍耐」で緊張緩和の政策を取らず
- ・トランプ政権（2017年～）の好戦的な姿勢が米朝の緊張関係を増幅させる
→北朝鮮は「パワーバランス」保持と、「自主権（国家の正統性）」を主張
- ・3回の米朝首脳会談

第1回（2018.6 シンガポール）①平和と繁栄へ新たな米朝関係を確立②朝鮮半島の平和体制 ③朝鮮半島の完全非核化 ④米兵士の収容

第2回（2019.2 ハノイ）経済制裁解除及び核施設廃棄の点で、食い違いがあり合意に至らず第3回（2019.6 38度線 韓国側「自由の家」）米朝韓三国による首脳会議で、トランプ「新しい現在を世界に示す」、文「敵対終息宣言」



3. 日本の対応

＜要旨：日朝関係は植民地時代の清算をして、国交正常化を図ることが肝要＞

- ・日本政府は、平和的解決に向けた効果的な対応をしているとは言えない制裁強化の見通しが立たず、外交的な解決を避けている北朝鮮の軍事的挑発行為に対し、緊張をおおる米国側の行為に加担
 - 在日米軍基地と日本列島が攻撃対象となる危険性があること（北声明）
- ・日本国民の責任として、相手の歴史的感情をよく考える必要がある
- ・日本のマスコミは、正しい報道をすること（感情的・短絡的で誤解を煽る）

以上、2回の講義を通して、朝鮮近代史の理解と日本の対応を再確認する学びの場となりました。また、各回それぞれ3つの質疑応答がなされました。

受講感想として、「朝鮮半島の動向が理解できた」、「植民地時代の清算と反省をして、今後の日朝交流の正常化を図るべきと思います」等、多数寄せられました。

なお、アンケートによる、講座総合満足度は「4. 1」（5点満点）でした。

（報告者：佐藤鋭夫）